

平成 30 年度第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：平成 30 年 7 月 17 日（火）13:30～15:30

場所：久慈地区合同庁舎 6 階大会議室

1 開会

【佐藤副局長】

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成 30 年度第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます副局長兼経営企画部長の佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、はじめに、県北広域振興局長の南から御挨拶申し上げます。

2 挨拶

【南局長】

皆さんこんにちは。県北広域振興局長の南でございます。

まずもって本日はお忙しい中集まりいただき誠にありがとうございます。

すでに皆様方も報道等で御案内のことと思っておりますけれども、県では来年度を初年度とする新しい総合計画の策定に向けて、取組を進めているところでございます。

特に県北広域振興圏におきましては、これまで震災からの本格復興、そして、一昨年台風第 10 号からの復旧・復興をはじめ、圏域の地域特性を生かした産業振興や人口の流出防止、移住定住促進、こういったものに取り組んで参りましたが、これらの進捗やあるいは成果を踏まえながら、来年度以降の次期総合計画を策定していく必要があるかというふうを考えてございます。

次期総合計画につきましては、先月 6 月に開催をされました、岩手県総合計画審議会におきまして、知事に対して中間答申がなされたのを受けまして、本日資料としてお配りしております、長期ビジョンを素案として公表したところでございます。

現在県民の皆様から、パブリックコメントをはじめ幅広く御意見をいただいているところでございます。

本日はこうした次期総合計画の策定に向けて、県北地域全体の復興あるいは地域振興に向けて、地域運営委員の皆様のご専門的な立場から忌憚のない御意見・御提言を頂戴し、次期総合計画に反映をさせて参りたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願ひを申し上げます。

【佐藤副局長】

次に本日御出席委員の皆様、並びに県の出席者を御紹介いたします。事務局から出席者名簿によりまして、御名前を読み上げますので、大変恐縮ではございますけれども、御名前をお呼びしましたら、その場で御起立いただき、その後御着席いただきますようよろしくお願いいたします。

3 議題

【佐藤副局長】

議事に入ります前に配付資料の確認をさせていただきたいと思います。

本日配布しました資料ですけれども、次第と出席者名簿と座席表でございます。事前にお送りいたしました資料ですけれども、次第の下の四角で囲んでございます通り、資料が1番から8番までとなっております。恐れ入りますが足りないもの、お持ちでない資料等ございましたらばお申し出願います。よろしいでしょうか。

それでは議事に入らせていただきますが、県北広域振興局地域運営委員、設置要綱第4の規定によりまして、運営委員会議は局長が主催することと定められておりますので、以降は局長の南が議事進行いたします。

【南局長】

はい、それでは私の方でこれから議事を進行させていただきます。円滑な議事運営に御協力お願い申し上げます。

まず、本日の進め方でありまして、冒頭申し上げましたように、本日は次期総合計画について皆様方から御意見を頂戴したいということでありまして、今後10年の岩手あるいは県北のあるべき姿、そういったものを思い描いていただきまして、こういった事を計画に盛り込んで欲しいというような、そういった御意見を頂戴できればと思っております。

そこで御意見をいただくに当たり、まず今年度最終年となります岩手県民計画の主な取組について、簡単にまずは御報告をさせていただきたいと思います。

はじめに(1)報告といたしまして、資料1の「平成30年度県北広域振興局の主な取組について」、事務局から御報告をいたします。

(資料1について、事務局から説明)

【南局長】

はい、ありがとうございました。

それでは、只今、今年度の県北局における主な取組ということで、御報告をさせていただきましたが、もし何か確認等ございましたら、お願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

それでは何か御確認等ございましたら、この後の意見交換等の場面でも御発言いただいて結構ですので、よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、(2)の意見交換に移らせていただきます。

資料3の次期総合計画につきまして、本庁政策地域部政策推進室の岩渕政策監からまず説明をいただいた後、資料4の県北広域振興圏における地域振興の展開方向、これについて事務局の方から御説明をいたしたいと思います。

その上で、皆様方から御意見を頂戴できればと思います。

では、はじめに岩渕政策監から説明をお願いいたします。

(資料3について、政策地域部政策推進室から説明)

【南局長】

はい、ありがとうございました。

それでは続きまして、資料4について事務局の方から説明をいたします。

(資料4について、事務局から説明)

【南局長】

はい、ありがとうございました。

非常に一方的ではありましたが、多岐にわたる項目、特にその長期ビジョン、次期総合計画の県全体についての考え方や取組、加えて、ここ県北広域振興圏における取組について説明をさせていただきました。

只今御説明いたしました内容につきまして、大変恐縮ではございますが、委員の皆様から御1人様3分程度ずつ、御意見を頂戴できればと考えてございます。

普段、皆様のお仕事そういった御専門の御立場から、プライベート等で色々と感じていらっしゃる事、そういった事を今後向こう10年間における岩手あるいはここ県北地域において、こういう風にしていくべきではないか、こういうような事に取り組んでいく必要があるのではないか、そういった意味で忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。

大変短い時間ではありますけれども、まず皆様方から御発言をいただいた後に、別途時間を設ける予定ですので、足りない分についてはその際にまた御発言いただきますよう御協力をお願いいたします。

それでは、御着席の順番に、間さんから御発言をいただければと思います。よろしく願いいたします。

【間委員】

はい、まだ何を話していいか固まっていなくていいところですけども、思いつくままに申し上げます。

まず、地域資源を生かした産業の展開、ここに着眼しております。そういった意味では、先般久慈市内で行われましたアパレル産業のファッションショー、あれは非常に良かったのではないかなと思っております。この地域、二戸、久慈地域にある縫製会社が、高い技術力があるということと、それから技術の伝承、それと皆さんの関心を集めた非常に成功した企画であったと私自身は思っております。

県北地域の地域産業ということで、県の方では特にもこの二戸圏域、久慈圏域は、第一次産業に力を入れているということでお聞きしておりますが、今般は林業政策について御提言申し上げて終わりたいと思います。

地域にある生産物を利用すると、例えば、建築材等使うという発想もいいかもしれませんが、ぜひ今後はアクションプランの中に、それを継承するため、そしてまた後継者の育成のためにも特色を示す。例えば、県のアカマツは何が特色なのか、これをはっきりと地域に示す、やっ和二戸では、漆が文科省の方で文化財として使われているので、必然的にその価値は認められつつあります。

ただ反面、先ほどお話したアカマツの使い方、何の特色があるということとか、それからもう一つ、安家、遠野、ケヤキ、広葉樹の特色、これも果たしてですね、どれだけ特色を捉えて他の地域に建築用材として発信するかとなれば、甚だ疑問の点がございませぬ。

ケヤキは、この安家地区、岩手県地区の広葉樹、特にもケヤキは寒さが陰しいがゆえに、木目が素晴らしい、これが第一の特色でございませぬ。

それから関東方面、関西方面で、よく使われる安家地区の槐はとにかく付加価値が高いはずでございませぬ。

その点について、地元の間人は、どの程度知っているか甚だ疑問であります。

物を売るためにはまず、ここで生産する人が自信持って、その特色を知っておかなければ、売れるものではない。この辺の取組が少し窮するのでないかと思っております。

私の考えでございませぬけども、ぜひ久慈地域のアカマツですね、これは完満といいまして、まっすぐ、同じ建築用材であってもまっすぐ、松というものは盆栽に然りね、しなっているのが全国のイメージでございませぬ。

ただ、久慈のアカマツ、南部アカマツというのは、完満といいまして、根元から裏までだいたい均等であってまっすぐです。今でこそ鉄骨の梁っているのは建築では主流を占めてい

るわけですが、昔、南部の藁葺、あそこなんかを使う梁、これは競ってこの地域から輩出されたものと聞いております。

この辺の見本、そういったものにちょっと力が入っていないのではないかと思います。

したがって、まず山では見本林を指定し、そこに看板を立てて、誰が行ってもなるほどというふうなわかるような工夫、そして、それを世話する育苗、手入れにあたる人間にはこういう特色があるのだよという教育を施し、自信持って取り組んでいける、そのような取組方がそろそろなされてもいいのではないかと私は考えております。

長くなりました、以上でございます。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

続きまして、青澤さんよろしく願いいたします。

【青澤委員】

はい、青澤です。仕事は社会福祉協議会という所で、福祉の関係の仕事をしておりますが、最近、心配というか気にしているのは、年々人口が減っていくということ、これが一番大きな課題だなと思っておりまして、何をやるにしても人が居なくなると産業も教育も大変だなと考えております。そのような中で、私ども社会福祉協議会では、若い人たちの結婚の支援、応援ということで婚活の事業に取り組んでいます。

婚活については、個人的なものであるため行政はどうなのかなという意見もあるようですが、この3年間実施してみて、毎年イベントの中で何組かカップルができて、なおかつそのカップルの中から、これまで3組くらいでしょうか、成婚されて、なおかつ子供さんが生まれているということで、人口は黙っていると減っていくわけですが、そういった若い人達、結婚してない方々を応援していくのがこれから必要なのかなと思っております。

県では岩手 i-サポということで、結婚の支援センター等立ち上げているわけですが、なかなかそちらも、勇気を出して出向くっていう方もあまり多くないという話もありまして、やはり身近な所で婚活イベントなどの取組を行う必要があるのかなと思っております。

私たちはこの3年間、久慈を会場にして開催したのですが、女性の方々の参加がすごく難しく、やむを得ず八戸との連携ということで、八戸を会場に取り組んでおりまして、八戸や十和田方面の女性から、結構な人数参加いただいております。

久慈広域では、商工会さんにも声掛けをしておりますし、二戸広域の社会福祉協議会さんにもお願いはしているのですが、なかなか人が集まりません。しかし、こういった取組を広域的に取り組んでいる地区もあるようで、やはり久慈・二戸・八戸まで含めたですね、広域圏な開催ができればいいのではないのかなと思っております。

なかなか女性の集まりが左右するようなイベントですので、そういったところを何とか工夫できればいいのかなと思っております。やはり参加した方々からは大変喜ばれていますし、都会ですと民間の会社が一生懸命取り組んでおりますが、田舎というのか、そういったところではなかなか難しいなと思っておりまして、そういった取組が必要だなと思っております。

あともう一つ人口減少に伴って問題だなと思うのは、労働者の確保についてです。様々なところで働き手がないということで、事業を継続したくても無理だという話も聞いております。そういった中で私ども社会福祉協議会は、この6月に就労継続支援のB型の事業所を立ち上げて、今何名か利用者さんがおりますけども、すごく喜んでおりまして、障がいのある人ももちろんですけども、引きこもりの若い人達もたくさんおりまして、そういった人達にも目を向けて、なんとか働く機会を作っていく必要があるだろうなと思っております。

今回の計画では、県内の様々な方々に、全ての県民の皆さんから幸福感を感じられるような計画というようなことを考えると、健常者だけではなくて、障がいのある人達にも働ける機会を作り、さらに一次産業の農業だけではなく様々な分野においても働き手が見つからないということもありますので、そのような人達ともうまくマッチングができて、障がいのある人、引きこもりの若い人達も働き手として、そしてまた、事業を経営している方々も、そういった人達と一緒に事業が展開できればいいのではないのかなというようにところを考えております。

若者支援と農福連携、この2点についてお話をいたしました。以上です。

【南局長】

はい、ありがとうございます。

続きまして、安藤さんいかがでしょうか。

【安藤委員】

はい、安藤です。私の仕事は漁業ですので、漁業の方についてちょっとお話させていただきたいと思いますが、おかげさまで漁船・養殖施設等は、ほぼ100%に近い感じで復旧・復興はしていただいております。ありがとうございます。

あとは漁港の方はもうちょっとかかりそうですけど、それも段々に目途がついてゆくのかなと思っております。

ただやはり会議の度にお話しているのですが、やはり問題なのは後継者問題で、今年から県でも岩手漁師アカデミーだか、漁師塾みたいなのを立ち上げて、我々生産者や行政と密に連携を取りながら、新しく新規漁業をやる人を探していくというような新たな取組があります。今後どうなっていくかまだまだわからない部分がありますが、やりたいという子がいたら、我々生産者も受け入れてどんどん仕事を教えて、1人でも2人でも岩手の漁業を絶やさ

ないように取り組んではいきたいなどは思っています。

あと、うちの野田村では、先日荒海ホタテ給食というものをやって、子供達に非常においしいと言っただけでした。とにかく海の物に触れて、身近に感じてもらえたらなということで私も参加したのですが、非常に漁師と子供達のコミュニケーションがうまく行って、楽しい時間だったなと思っております。

その後、磯遊びというものを一緒にしまして、カニを取らせたり、そういった取組もしたりして、その中から1人でも2人でも海の仕事に就きたいなと思う子が将来出てくれば、いいのかなと思ひ、そのようなことも考えながら様々取り組んでおります。

短いですが、以上です。

【南局長】

ありがとうございます。

続きまして、着席順で大沢さんよろしくお願ひいたします。

【大沢委員】

はい、大沢でございます。

アパレル関係でございます。ファッションショーについては、北岩手デザインファッションショーを5回、御陰様で開催させてもらいまして、来年の2月には、再び二戸で開催する予定でございますので、地域の皆様には色々と御世話いただくことがあるかと思ひますので、その際は改めてよろしくお願ひします。

アパレル関係につきましては、県北広域振興局様にも大変お世話いただいているわけですが、弊社も含めほとんどの会社が誘致企業として、東京であったり、岐阜であったり、関西方面であったりから、二戸、久慈に来ているということで、年数がおおよそ30年から50年ぐらい現状で経過しているところでございます。当社の場合は、現在40年ちょうど経過したということで、事業承継の部分もそうですが、技能の承継についても、ちょうど生え抜きの社員が定年を迎える節目ということで、いかに技能士として承継していくかが企業体として生き残りの生命線であるということ意識し各社対応を急いでいるところですし、そのためにも仕立て屋女子会など、そういった形で社員一人一人の技能レベルの向上に取り組んでおります。

何しろ機械に置き換われる仕事ではございませんし、人の手、技能が会社の評価・価値になるということでございますので、こういった点についても横の連携を図りながら、同業者間でレベルを上げていきたいなと考えておりますので、御指導、御支援の程よろしくお願ひします。

そしてお願ひでございますが、インターンシップの方、地域の中学生・高校生そういった

部分につきまして受け入れさせてもらっているところがございますが、できましたら、県内全域であったり県外だったり、若い層の受け入れられる対象を広域にすることが可能であれば、そういった働きかけも早い段階でお願いできればと考えているところがございます。

それと先だって、今御中元のシーズンですので、当社の方では必ず二戸産の紅秀峰をお中元として取引先に送付しているのですが、なかなか山形のものというブランドイメージが首都圏の方では強いようで、なかなか岩手も、さらに言うのであれば二戸も何年取引していても青森と勘違いされることがございまして、北岩手という形でアパレルの方も動いていますから、まだまだ北岩手という形でのブランド化が足りないのかなと実感した限りでございました。そういったところもこれからの課題かなと個人的に考えております。

そして、最後になりますが、これだけスピードの時代になっていて一住民してなんですが、新幹線の停車について、二戸駅の停車が、若干ちょっと朝が遅いのかなと感じておりまして、二戸を朝一で乗って行っても東京駅に10時半にしか着けません。一方、盛岡の始発に乗って行けば、9時過ぎには東京駅に着くことはできます。

しかし、八戸から二戸を飛ばして、盛岡に停車するという形で、この1時間半という時間の差が非常に貴重でございまして、日帰りで5社から6社訪問できるようところが、やはり10時半に東京駅でございまして、頑張っても4社ぐらいです。これだけスピードの時代になっておりますから、二戸の停車が7時半の新幹線、盛岡着でも構いません、7時10分のやつでも、どちらかが停車するような形で、御検討というか、働きかけをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

お願いばかりで大変恐縮ではございますが、以上でございます。

【南局長】

はい、ありがとうございます。

続きまして、大矢内さんよろしく願いいたします。

【大矢内委員】

久慈市の大矢内といいます。よろしく願いいたします。

先日は膨大な資料を送っていただきまして、色々勉強しようと思ったのですが、とても私の頭ではこれを理解するのはなかなか難しく、大変何をお話ししようかなと思って参りましたが、まず、私は農業をやっていますので、今思っている事をお話ししたいなと思います。

久慈市では私がやっている、菌床しいたけとほうれんそう、園芸作物としてはこの2つを主に重点的にやっているわけですが、私は日頃山形町におりますけども、まず久慈市と合併して良かったなと思っております。

若い人達にとっては、流れも幅が広がったのではないかなと、今の意見等、若い人達の話

を聞くと感じております。

そういう意味では何に困っているのかということですが、久慈にはやっぱり働く場所、なかなか仕事場、収入、思うように得られないということで、その辺がここで住んでいくための一つの問題点なのかなと私は感じております。

そういう意味で、農業者としての私の考え方は、まず、今回減反政策も廃止になりまして、遊休地もまた出るのではないかなと感じております。

第一次産業、やはり大事にしていかなきゃならないという思いから、やはり農業も食べていける農業、やっぱり若い人達でもよそに行って働いて、収入を得てという生活をしていると思いますが、その収入を第一次産業の農業で得られれば、それなりに生活が成り立つわけですので、そういう意味では遊休地等を大いに活用して、第一次産業をもっともっと盛り上げていただきたい。

その支援を県の方でも応援いただきたいと思っております。

やはり久慈は住んで大変いい場所だなと思っております。そういう意味では、よそにどうだということではなくて、久慈に住んで良かったなという思いには、安定した収入、安定した仕事をして、子育てが安心してできることが大事だと思っておりますので、先程のお話が出てきたということでございます。

あともう一つは、私今(菌床)しいたけ部会の部会長をやっておりますので、これはぜひ言っておいてくれということで、私事でお話しするわけですが、今年、販売目標額を7億ということで、菌床しいたけ久慈生産部会ではやっておるのですが、ほうれんそうはちょっと下降ですが、菌床しいたけは、どんどん伸びていくというところであり、今ここにきて少しずつ、新規就農者とか規模拡大とか、色々なお話が出てきています。

今年も、3名の方が新規就農になって、仲間入りをしていただくこととなっていますが、いずれ補助事業はこれまでも大変お世話になってきているのですが、補助事業の在り方というものも考えていただきたいなと考えております。

というのは、今までもそれぞれの畜産業、色々な農業に関連する補助事業をいただいているわけですが、その中で、国もそうですが、生しいたけ、菌床しいたけというと私達は農業だと思っているものの、どうもこの資料4も含め色々な所に出てくるわけですが、しいたけというのは林業だと、林業分野だということで示されています。ここがちょっと色々な捉え方があると思うのですが、私達は農業だということで考えて一生懸命取り組んでいるのですが、こう色々なことをお願いしていく中で、今日の資料も含め書き物を見てみると、しいたけは林業の関係でしか出てきません。

ぜひ国の方にも働きかけをお願いしたいのが、やはりそのすみ分けをはっきりしていただければ、それぞれの県の担当者の方も農水省にお願いするのか、どっちにお願いするのかというお話が出てくると思います。

今のままだとどっちにも付かない状態にいるので、私はそのことについて心配しており、部会でもその辺はたまに出てくるところでございます。

その辺お考えをいただければ、幸いです。

そういうことで、いずれ仕事場が無いではなく、何かの農業でも何でもいいと思います。食べていける形さえ整えれば、若い人達は戻ってきてくれるのではないかと、私は基本思っておりますので、ぜひその辺の政策を、大いに県の方でも自治体の方にも御指導いただきながら進めていただければなと思います。

思いついたままお話しして申し訳ありません。以上で終わります。

【南局長】

はい、ありがとうございます。

続きまして、小野寺さんお願いいたします。

【小野寺委員】

はい、軽米から参りました小野寺です。

私は、今軽米で部品作りの工場を営んでおります。その関係の中で今、こうして岩手県の方では10年ごとのプランを立てて進めていらっしゃるということでしたが、先程大沢さんの方からも、40年ぐらい過ぎましたというお話がありました。

私共も、当初は町の誘致企業ということで参りまして、それから30数年が過ぎ、10年ごとの雇用の変化、あと、仕事を受ける側での親会社の考え方の変化というのが、物凄い勢いで今変わってきております。当初、その変化が激しいなと捉えておりました。

岩手県北の中でこういう部品工場を始めるにあたって、当時はどちらかという現金収入が得られるということで結構注目していただきましたが、なかなか私共の、私だけかもしれませんが、私共の力が弱く、中央の賃金体系にどうしても近づけられない。どうしても岩手の県北ということで、安い賃金で、もっと言えば低コストで生産できるということが、どうしても拭いきれず今までやって参りました。

中央の方では、働き方改革ということで、どんどん日本のものづくりの生産性が、世界に比べるとまだまだ足りない、低いと捉えられていますけれども、その点に関してはその通りだと思います。今、二戸の方でも技術の継承であったり、技術を高めたりするために、ものづくりの分野において岩手県の方からも応援いただいて、要は業務改善ということで取り組んでおりますけれども、まだまだその業務の改善のみならず、ものづくりの要は生産改革ですので、やはり岩手県北においても必要なのかなと思っております。

中央の盛岡だったり、矢巾だったり、そういうところを見ますと、結構技術を学べる機関が、県立産業技術短期大学校さんでありましたり、県立大学さんでありましたり、要は30分

弱で通える場所があるわけですが、やはり県北からそういう所に勉強に出すのもなかなか、片道1時間半、往復3時間というところですので、そういう意味では、この県北にもそういう技術訓練校だけではなくて、もう一つそういう技術の学びの場を作っていたら、これからはもっとも若者を含めて、そういう技術力の向上を進めていけるのかなと思います。そしてやはり、なんと言っても、岩手県でこれから作成されるプランのメインは、幸福感とおっしゃっておりますけども、やはりまだ、私が見る限り県北においては、この幸福感も必要でしょうけども、やはり年収アップ、これも必要ではないのかなと考えております。

そういう面もありまして、まだまだ我々、我々っていうよりも私の手腕が足らなくて、なかなか中央に見合った賃金を出せないでいますので、何とかそういうものづくりの改革をしながら、中央に負けない賃金体系の構築ができればなと思っております。

あと、そのものづくりとは観点が違いますけども、昨今、私の近くにも老人、介護が必要な人達が随分増えてきて、特に軽米は、なかなか言いにくいところではありますけども、自殺率も高いところだと言われておりますけども、ここの部分もただただ何か働きつて言うんですかね、労働一本でやってきて、それぞれ老後のパラダイスというものがなかなか見出せないところにも一つの発端があるのかなと思っておりました。

やはり、都市の老人なんかを見ますと、色々な所、エステなどに自ら通って、同じ年齢であっても全然動き方、やはり活力が違うなと思います。これを田舎の中で、自然の中で本来はもっともっと、気持ちがかう広く穏やかに過ごせるはずですけども、そういうことがやっぱり必要なかなと感じておりますし、あと、昨今の報道で見ますと、なかなか小さな子供さんの件に関して、岩手県においては北上でもありましたし東京でもありましたが、何でこんなことが起きるのだろうかと思います。逆にこの2件を見ましても、行政批判ではないですが、行政にも連絡が何らかの形で届いていたと、なかなかそのところが、防止に繋がれなかったと、この辺をこういう政策や、行政のプラン作りの中により踏み込んだ具体的な取組を盛り込むこと、なかなか難しいことだとは思いますが、もう少し踏み込める対応策なり、施行できることを盛り込んでいただければなと思っております。

ちょっと雑で大変恐縮ですが私からは以上でございます。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

続きまして、澤村さんお願いいたします。

【澤村委員】

はい、洋野町の澤村と申します。

私は洋野町でウニを獲っています。

先日も、ウニ祭りにウニ色餅を作って提供させていただきました。

ウニを食べに来た何万人という御客様の前で、洋野町のウニはおいしいよというPRができたことは、本当に良かったなと思います。

そして、7月5日ですけども、県民SHOWで、たまたまラーメンを食べていたら、テレビが来て、海賊ラーメンだったのですが、ラーメンの中に洋野町のウニが入っていて、ちゃっかりと私もPRしてしまいました。

私も獲って、自慢の物はやはり皆さんに食べてもらいたいし、本当にぜひ洋野に来てもらいたいということで、ちょっとPRをさせていただきました。

そしてまた、私は食生活推進委員協議会の会長もしておりますので、今は働き世代の皆さんに健康で長生きしていただきたいために、減塩食を指導しています。

種市高校と大野高校に今年やっと入ることができました。本当に念願でしたけれども、都合がつかないということでこれまで入れなかったのですが、今後はずっと高校に入って指導ができるようにできればいいなと、これが私の願いです。

そしてまた、一つ質問があります。

食料備蓄品、これは期限が過ぎてしまうと廃棄、実は去年テレビで見たのですが、もったいないなと思います。こういうのは期限まで置かなければならない物でしょうか。2日ぐらい前だったら期限があるので、いっぱい活用できるのではないですか。私の簡単な考えで思ったんですが、活用できる物であれば、活用していただければいいなとそういう思いです。よろしくをお願いします。

【南局長】

はい、ありがとうございます。

続きまして、七戸さんよろしく願いいたします。

【七戸委員】

九戸から来ました。私は仕事として、炭を焼くことと、あと家で農業をしています。

炭と農業を一緒にやっているのですが、従業員の人を雇ってやっております。多分どこもそうだと思うんですけども、まず若い担い手がない、農業もそうですし、炭を焼いている人達も70代、80代がほとんどです。

家は、息子もいて一緒にやってもらっていますが、嫁がいない。

要は、結婚して家族を持って、じゃあ炭焼きで生活できるのかって言えば不安がある。農業もその通りですし、どうしても若い人がやり辛いところなのかなと思っています。

ただ自分は、農業も炭焼くことも好きなので、色々なことをまず勧めて、若い人達でもできるってことを勧めていきたいなと思います。

まずここに参加させてもらった事をきっかけにして、色々な話を皆さんから聞きながら、参考にしながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

続きまして、中田さんよろしくお願いいたします。

【中田委員】

はい、私は二戸で介護福祉施設を経営しております。

その中で一番やっぱり、問題だなと思うのが、こちらの資料にもございました、人員確保でございます。

募集してもなかなか補充できないというのが現状でございます。新卒者に向けても色々活動しておりますが、如何せん地元唯一ある福祉科の学校でさえ、生徒が5人しかいないというのが現状です。

その5人を皆で取り合うような状況が生まれております。今私達が勤務していることの一つとして、二戸圏域で唯一の福祉職・福祉専門職の養成校である、一戸高校の再編にあたって、希望数の少ない福祉科が無くなるのではないかというお話が挙げられております。

もし無くなってしまえば、おそらく福祉を目指す子達は盛岡の専門学校を目指して進学するだろうなということで、盛岡地方の方に行ってしまうと戻って来ないだろうと、本当に悪循環、本当に目に見えているなということは、今問題とされていまして、私達二戸市内の協議会でも、各町村を回って、ぜひ地元で養成校を残して欲しいなという活動を進めている最中でございます。

福祉の専門校だけでなく今は色々ところで活動をしていかなければならないなということで、色々な学校、中学校の方にも赴きまして、福祉の理解をしていただくという活動も始めたところでございます。

高校については教育の分野だとは思いますが、県の方の政策として、目先の今は少ないからというのではなく、将来的なものを見据えた形で、その辺は考えていただければとても嬉しいなと思っております。

あと、この資料を読んでいて漠然と感じたのですが、幸福度についてすごく挙げておられて、たくさん基本方針がありましたけれども、なんか漠然としていて、正直なところピンと来ないところがあるなど、ほかと同じよりは、やっぱりどこかに特化した形の取組をした方が、皆さんももっとこう実感が出てくるのではないかなと、個人的な意見ですけどもそう感じました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

続きまして、石橋さんよろしく願いいたします。

【石橋委員】

二戸市の浄法寺町で南部煎餅を製造しております、石橋と申します。

うちの会社も、先程皆さんからあったように、本当に人の確保が一番難しくって、今は平均年齢 55 才、もうあと何年かでリタイヤする人がいっぱいいて、どうしようと日々考えているのですが、その中で人口減少というのは、極端な話、止められるものではないと思います。

それを延命、長引かせることはできると思いますが、止めることは絶対にできないと思っていて、そういった時にさっき書いていた I o T とか A I とかを本当に真剣に有効活用していければ、企業も生き残っていけるのではないかと考えております。

それはなぜかと言うと、今青年部とか青年会議所でも色々セミナーを一生懸命受けているのですが、全く人がいないって言うのはおかしい話ですけれども、人がいなくても成り立つ会社っていうのはいっぱいあります。それがじゃあなぜ田舎だからダメなのかとか、東京とか先進国とか都会じゃなきゃダメなのかっていうのはおかしな話であって、田舎だからこそ違う形で生き残っていくやり方っていうのもあるのではないかと考えています。

色々な会社とかを見に行った時に、本当に人がいなくても商品が作れるなど、そういうものがいっぱいあって、昔からの良いものは無くすのではなく、残しながら新しいやり方をしていくというのが一番重要な事だと思っています。

ちょっと話が変わるのですが、私、先週まで埼玉の催事に行っておりまして、お客さんと話をしていると、去年岩手に遊びに行ったよという人がいっぱいいて、どこ行ったかと聞くと、ちょっと残念な事に県北地域は一人もいませんでした。花巻とか中尊寺とか盛岡とか、釜石行ったよとか、県北一人もいなかったのがちょっと残念だなんて思っておりまして、こういう会議のほかにも色々会議に参加させてもらっているのですが、じゃあなぜ県北が弱いのかといつも思っておりまして、答えはあまり出ないのですが、そういう意味で首都圏に行ったときにそういう色々生の声を聞いたのは良かったのかなと思います。深い所までは及んでいないのですが、花巻とか盛岡、中尊寺、釜石に行った人が言っていたのですが、都会の感覚で遊びに行くと、移動手段がないと、一日に何本の電車とか、電車がある所はいいけど、バスも一日に数本という、そういう話が聞けて、予定が予定でなくなってしまうという話もしていたので、尚更県北地域に来ると、そういうのも多分、多分というか絶対あると思うので、そういった関係でもできるできないは別として、A I とかそういうものを活用して、どうにかこうやっていけないのかなとは思っておりました。

私もよくよく考えると 22 年前高校生だったわけですが、その時はポケベルでした。そして震災の年ぐらいにスマートフォンに変えたような気がします。すごいスピードで時代が流れていって、もう 10 年後って言っているぐらい、10 年じゃ追いつけないので、2、3 年で一気に変わって行くのではないかなと、海外の方では、もうお財布も何も持たず買い物ができる、泥棒みたいに盗ってもそのままカードも何も必要無くて、携帯とかもピッとやらなくても、出るだけで勝手に清算ができる世の中になってきていて、そういうような時代になってきているのに、じゃあ我々はこのままやっていって成り立つのかなと、このど田舎でそれをやったらすごいのかなって、漠然な考えですけどもそういうことを思っています。

私は二極だと思っています。すごく田舎、自然も豊か、その一方でこんなど田舎なのにこういう最先端の町があるっていうのは、すごく魅力的な事なのかなって、そうなったらすごい良いのではないかとは思っています。

あと、催事に行った時に、親戚の子が東京に就職したのですが、何でこっちに就職したのか聞いたら、働きたい仕事が無かった、東京にしか無かった、東京っていうか関東にしか無かったって言うておりました。

逆にしてみれば、その会社が、そういう企業が東北の方にあったら、東北の方に残っていたということになるので、そのような企業を誘致するとか、そのようなことも有りなのかなとは思いました。

一応私は色々な所で言っているのですが、僕達は一生懸命仕事をしていますけど、これからの子供達に教えて行かなきゃ駄目だと思います。小学生、中学生、なぜ地元に残んなきゃ駄目なのかとか、なぜ地元で働かなきゃ駄目なのかっていうのを、小さい頃から、洗脳じゃないけれども、教えていったらいいのかなと思います。

僕は親に継げと 1 回も言われたことは無いのですが、継がなきゃ駄目だろうなって思って地元に戻って来て家業を継いでおりますが、多分自分が長男じゃなく、次男とかだったら多分いなかったらろうなと思います。

ですので、家業だから地元に残るだけじゃなくって、自分の故郷だから地元で仕事をして、この地元を自分達でどうにかしていかなければならないという、そのような考え方、根本的な考え方を小さい時から埋め込むっていうか、教えて行かなきゃ駄目なのかなとも思います。

そして最後に、ちょっと私の勉強不足で申し訳ないのですが、岩手県だと県が予算を出して、スーパーマーケットトレードショーとかに出展して、企業公募しているのですが、岩手県だと岩手県全部から募集してとなるので、もしそういうものがあるのでしたら、県北地域でそういうのをトレードショーで出して、県北地域の良いものだけをピックアップして、出展とか出来れば県北地域の宣伝にもなるんじゃないかなと思っていました。以上です。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

続きまして、三田地さんよろしく願いいたします。

【三田地委員】

はい、普代村から来ました三田地です。

私は、家が一応商店街と言いますか、村の中心部にありますので、毎朝子供達が登校したりするのを見ながら暮らすことができますので、幸福度からいけば私はあるなと感じております。

ですので、この自然とこの子供達の笑顔さえあれば、ほかは何もいらぬのではないかと思いますので、先程からもありますように、第一次産業をとて大事に県としてはやっていたきたいなと、この自然を守ってくれるだけで十分なのではないかと、これ以上物は作らなくて良いと思っております。

私はガソリンスタンドをやっておりますけども、この先はスタンドを個人でやるのは限界があるなというのは感じておりますので、これを行政がやるなり、防災の関係からも消防署と隣併せて、これからは作ってもらったりした方が良いのかなと思っております。

やはり、私ももう歳ですし、私の代で終わるかなとは思っているんですが、それこそ林業、農業、ここを大事に自分も生活していければ、海に栄養も行きますので、守られるかなと感じております。

あとはツアーというか旅行客の観点から見れば、少し県北自体を大きなテーマパークのように捉えて、釣りならもう普代村に特化するとか、野田ではもうアクティブな運動が出来る場所だとか、久慈はもう夜に特化してお酒を飲んで泊まる宿泊もあると大々的にアピールするとか、もちろん洋野に行けばおいしいウニも食べられます。まあでもこの三陸はどこも本当においしいです。北海道にも負けない食の豊かさはあると思っております。二戸に行けば歴史を感じたり、内陸の良さ、やっぱりそういうのもこの県北自体に来てもらって、もう無理やりでも三鉄に乗ったり、八戸線に乗ったりして割引ができたらいいのかなと、必ずここに泊まってもらうという工夫も必要かなと思っております。はい、以上です。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

続きまして、森川さんよろしく願いいたします。

【森川委員】

はい、二戸市から参りました森川則子と申します。

私は環境の分野から御指名をいただいたと思いますが、小学生、中学生に川に棲む水生生物を調査してもらうことによって、川の汚れ等を指導しています。それから環境において岩手青森県境産業廃棄物不法投棄事案、それに原状回復対策協議会ということに関して、私達カシオペア環境研究会は住民の代表ということで、代表を委員として出しているという関係があります。

環境ということで、岩手は自然豊かで緑が豊かっているようによく言われますが、私は決して岩手県は自然豊かと言っても、緑が多すぎると思っております、というのは緑は山の緑、森林、森、林、そういうところですが、やはり手入れが行き届かないとただの鬱蒼としたジャングルのようにしか見えません。

今だとまさにツル類が大変繁殖して、綺麗な木が綺麗には見えないなと思います。以前緑化に関しての税金がありました。そういうのが出来た時に、あれは岩手独自だと聞いたのですが、これで岩手の森はだいぶ綺麗になるのではないかと思います、ただパンフレットを印刷したり、子供達を森で探検させたりとかそういう事に主に使われていたようで、森に入って間伐をすとか、いらぬツル類を切り込んで切り出すとか、そういうことまでにはいかなかったのはとても残念に思います。

それで、今はバイオマス、木質バイオマスエネルギー、再生エネルギーの中でそういうところに、まさにそのいらぬ緑をうまく利用してエネルギーを作っていただければ、岩手の森林はとても綺麗に見えるのではないかと思います。

それから観光に関して、先程何人かが岩手の観光について話しておりましたが、例えばまるごと岩手とか、まるごと岩手県北とか、そういう形でピンポイントに歩いて観光する方法、自転車、サイクリングとかそれから車とか、そういうルートの少ない公共交通機関、それらをうまく地元の人達が考えて、このように歩けますというように具体的に提供をしないと、なかなか観光へは結び付かないのではないかと思います。

それぞれの市町村が、うちにはこういう良いものがあるよ、うちには天台寺があるよ、うちには御所野遺跡があるよと言っても、それを回る、効率良く回る方法はどうしたらいいのかということをしちゃんと提案できる状況な体制を作った方が良くかなと思います。

それと、大雑把なところで市町村があつての岩手県、岩手県があつての市町村ではなくて、市町村があつての岩手県という事から、県と市町村の繋がりというものをもっと密にとっていただければ、色々な政策が順当に進むのかなと思います。

それからちょっとこれは突拍子のないことかもしれませんが、花巻空港が台湾ルート定期就航という運びになりましたが、私が一つ恐れているのは、外国ルートが入ると地方の空港とか地方の港町は、いわゆる覚醒剤の汚染とかに狙われやすいところでありますので、私薬物乱用防止指導員のことも長く引き受けしている関係から、台湾ルート、喜ぶことだけではないなと思いますので、治安とか保安とかそこを強化しないと、岩手も覚醒剤の汚染とか

広がってしまうんじゃないかと心配している昨今です。以上です。

【南局長】

はい、ありがとうございました。

では最後に、山下さんよろしく願いいたします。

【山下委員】

どうもお疲れさまです。

私は奥中山でレタスを作っているレタス農家です。

レタスの生産者の部会の役員もやらせていただいておりますので、そういったところで、今日はお招きいただいたのかなと思います。

そこで、農業を中心にお話をさせていただきたいと思います。様々な産業で後継者不足というお話でしたが、私達も同じような問題があります。

私が個人的に考えるのは、高齢になって農業をやめようかなという方々がいらっしゃいますが、やはり産地として形成する際に、生産者が減っていくのは大きな痛手ですので、1年でも長く頑張りたいということ。新規就農者の方も何人か増えてきているのですが、やはりベテランの方々が減ると影響は大きい。その域まで到達するのに何十年もかかるものから、高齢の方が辞めようかと判断する理由の一つに、トラクターが古くなったからやめよう、買い替えるとなるとちょっと大変だし、そこまで投資して家族経営を続けて行くのもどうかという考えにいたることが挙げられます。年金と細々野菜を育てて暮らしていこうかという方々がいらっしゃいます。レタスの畑を誰かに貸そうかとか、遊休農地になってしまうとか、そういう場面というのが結構ありまして、ですからベテランの方々がもうちょっと頑張ろうか、あと2年、3年頑張ろうかっていう選択肢を持てるような事業が必要だと思います。今ある事業というのは規模拡大を条件とした事業の採択要件になっているわけです。

現在レタス農家がだいたい50人ぐらいでおよそ10億を目指しているという状況です。2、3年前に達成はしていましたが、作付面積が結構マックスの状態です。家族経営で平均すると1経営体当たり2千万ぐらいの売上額なのですが、大変ハードな農作業になっています。

そこにもっと面積を広げなさいというのは、ちょっと高齢になってくると大変な話になります。例えば5町歩やっていたベテランの人が、機械を買い替えなきゃいけないから、もう辞めようかとなると、5町歩減るわけです。それをあと2年、3年頑張ろうかという時に、新しい性能の良い機械が購入でき、導入できると現状の家族の労働力で現状維持ができ、産地として面積の減少するスピードが緩やかになる。現状維持っていうのがすごく大切で、市

場に対しても量販店に対しても産地としての評価というのは、1人2人では産地形成はできないものですから、やはりある程度の50人もしくは60人という生産者のまとまりがないと、なかなか大きな数字というのは納品できないものです。

そういった意味では、ベテランの方々を2年、3年また頑張っていこうかと、そしてその間に新規就農者の方々に技術を教えていくことができれば良いと思います。あとは辞めた高齢の方々の小屋の中には、新規就農者にとっては財産がいっぱい眠っています。スコップ一つ取っても、新しく始める人は買わなきゃいけないですが、そういった物をマッチングするコーディネーターも必要かなと考えていました。

農業を辞めようとする人と始めようとする人の仲人役には、辞めようとする人にとってはスクラップになってしまうものですが、始めようとする人にとっては宝となりますので、そこは価格交渉なり、もちろんその間をとってくれば良いのかなと思います。

また私達は、昨年まで岩手日報さんとタイアップして、東北スマイルプロジェクトということで、レタスアートという活動をしておりました。将来の担い手育成も狙ってはいたのですが、子供達に体験学習ということでレタスを植えて、アートを表現しました。復興応援ということも含めて、沿岸仮設団地に無料配布したりとかといったような活動もしながら、発信力というものを高めてみました。このような活動を通じて地域の担い手の裾野拡大ということも想定しておりました。小学生、中学生といったところに経験値を広げていくということです。

その時に農作業の経験だけではなくて、大手メーカーさんの方々も一緒にやったものだから、商品開発ということも行いまして、パッケージサラダのデザインを中学生に作ってもらって、それを東北6県の100店舗において期間限定で販売をしました。

そのようなことを通じて、農業ってレタスを作ることだけではなくて、そこから商品開発という職業があることとか、奥中山出身の子供が将来大手量販店のバイヤーさんとなり、戻ってきて、強気に売ってくれるという、そういう人材育成の見方もあると思います。奥中山にとっても強みになってくるかなと思います。

ですから、戻ってくる人だけではなく、都会の大手に行った人が地元を好意にしてくれる地元びいきの人材になって、ほかのところで活躍していくと、地元の企業なり農業というのは、また優位になってくるのではないかなと思います。思っているのは、地元同士のコラボみたいな話で、例えばレタスの食べ方でB-1グルメみたいな形で、例えば醤油メーカーさんとタイアップして、こういう風な食べ方があるよとか、よくキューピーさんとかでマヨネーズの使い方ということで、様々なCMがありますけども、ああいう発想で発信していくのが必要だと思います。東京のメーカーさんではなくて、地元の企業さんとのコラボみたいな考え方で、地元の特色のある食材を発信していくというようなことを県の事業の中にバックアップ体制を整えてもらえればかなと思っています。

あるいは、アパレル関係の方々と、農作業着、私達が普段毎日のように着ている農作業着を地元のアパレル産業さんの方々に、若者が着て素敵だなと思うようなものを開発してもらって、全国に発信していくとか、それをブランド化みたいなのという考え方も面白いかなとも思います。それを開発するヒントとして若い感性や機能性も必要でしょうし、そのような異業種の組み合わせで展開できれば良いと思います。

最後に、地域コミュニティの中で、私達農業者は、地域の色々な会合で集まると、今日は農業人として集まって、違う日は消防団として集まる、集まるにしても同じメンバーになります。それが逆に色々な良さが出てきています。子供達の安全とか、老人の方々の安心感とか、そこが田舎の良さかなと思われれます。暮らしていてその幸福度というのを考えた場合、田舎過ぎずちょっと都会的な、コンビニもちょっとあって、夜ちょっと飲みに行ける所もあってと、私が小さい頃はそういうのが全くなって嫌だなと、奥の中の山という所で恥ずかしいなと思っておりましたが、最近は自慢できるような地域になってきています。そういうところを各地域で検討し、今風にアレンジした地域のコミュニティっていうのができると、住みたくなくなるかなと思います。あるいはほかの地域で働いていてもふるさとを大切にしてくれる人が増えてくるような気がします。

【南局長】

はい、皆様方から大変貴重な御意見、たくさん頂戴しました、ありがとうございます。

一応一通り皆様から御発言をいただきましたけれども、先程御発言をいただいた以上に言い忘れたとか、あるいは他の方の御発言を聞いて、やっぱりこういう事をちょっと提案してみたいとか、そういった形で何か付け加えたい方、もしいらっしゃれば、挙手いただければと思いますがいかがでしょうか。

はい、青澤さんお願いいたします。

【青澤委員】

はい、青澤です。

福祉の話ではないのですが、今気にしているというか心配していることがありまして、私自身若干、森林、山を所有して、間伐したり造林なんかしたりしているのですが、そういった関係で、色々な林業関係の方、業者さんと話をする機会が結構ありまして、そういった中で、松くい虫とか、ナラ枯れ病の話題が結構出てきます。松くい虫は盛岡のかなり北の方に行っているとの話もありますし、ナラ枯れに関しては田野畑村さん、今年度は久慈、洋野まで北上するのではないかという話もあります。そういった中で何人かの松の所有している方は、松くい虫が来る前にもう木を伐るということで、伐り始めているっていう話がありますし、また一方では造林をしている業者さんからも、ちょっとこの先どうなるのかなと大変だ

なという話も聞いております。この計画の中では、色々なアカマツや広葉樹を利用するとか、あるいは乾シイタケ、原木シイタケとか、木炭の計画もかなりあるわけですが、久慈広域、二戸広域に膨大な資源として森林、山があるわけですが、そういった松くい虫などは、あまり気にするほどでもないのか、やはりこれは非常に大きな問題なのか、そういった情報がきちっと伝わってくればいいなと思っております。よくわからないのに、業者さんの言いなりになって、山の木が伐れるってことになるで大変なのかなと思っております、実際この松くい虫とかナラ枯れは、どういう状況で将来に渡って心配するくらいなのか、さほど心配しなくてもいいのか、この辺を分かればありがたいなと思います。

よろしく申し上げます。

【南局長】

じゃ、林務部の方から情報を提供させていただきます。

【及川林務部長】

はい、それでは松くい虫被害と、ナラ枯れ被害が、当地域に影響があるのかどうかというお話でした。

まず、アカマツの松くい虫被害ですけれども、現在被害が一戸町で発生をしております。

昨年度初めて発生したのですが、今年度も若干被害が見られます。二戸管内においては、このアカマツの松くい虫被害の徹底駆除を行っており、被害木は全て駆除しております。

そういう意味では、まずは火元を絶つということで対応しておりますので、すぐすぐこちらの方に虫が飛んで来て被害が拡大するということはないと考えております。ただし、マツノマダラカミキリという虫によって、被害が拡大しますので、アカマツ丸太にへばり付いて、人為的にこちらの方に持ち込まれると、虫がアカマツ林に飛び込んで被害が発生するという恐れはあります。

ですので、我々といましては、いずれこの地域で枯れたアカマツがあれば、徹底的に調査をしておりますし、必要であれば駆除もいたします。

ということで、アカマツの松くい虫被害につきましては、当地域ですぐすぐ何かをしなければいけないという状況ではありませんが、我々も一户町の被害状況については注意をして見ております。そういう状況でございます。

次にナラ枯れ被害ですけれども、ナラ枯れにつきましては、先程お話もありましたように、毎年30キロぐらいずつ北上して被害が拡大してきておりまして、現在田野畑村が北限ということになっております。

このナラ枯れに関して言いますと、被害が発生しているのがナラ類で非常に太い木、そして老齢の木ということでございます。当地域は、しいたけであるとか、木炭であるとか、広

葉樹、ナラ類を活用している地域でありまして、若いナラ林が多いということが特徴になっております。ですから、そのようなところへの被害の拡大については、危険性は少ないとは思われますが、老齢木が残っているようなところでは、被害が発生する危険性があります。

ですので、この計画の中にもちょっと触れていますが、広葉樹につきましては、老齢木、大径木は利用する。そして利用しながら林を若返らせる。そのことがナラ枯れについては、一番の予防策になると思います。

ナラ枯れにつきましては、いつ管内に入ってきてても、おかしくないという状況ですので、松くい虫被害木のように、一本一本駆除するというのではなくて、むしろ積極的に利用して、更新を図っていくということが、この地域には求められると思います。以上です。

【南局長】

青澤さん、よろしゅうございますか。

【青澤委員】

はい。

【南局長】

その他に、皆さんの方から何か御意見ございませんでしょうか。

はい、森川さん。

【森川委員】

時間の無いところですいません。

今日の資料3の、右下に10と付いているところですが、【第1章】理念(つづき)というところの文言について、この資料を読んでいて、どうしてもそこすんなりと読み越せなかったところがあるのですが、3の計画の理念、7行目かな、「社会的に弱い立場にある方々」という表現が、なんかどうしてもこう、お金があつて経済的に色々恵まれている人からの上から目線のような、なんかそういう表現があつて、それで2、3行読んだら、国際、国連サミットで採択された「誰一人として取り残さない」という言葉があつて、これはすごく良い言葉だなと思いました。

というのは、社会的に弱い立場にある方っていうのは、お金が無い、仕事が無い、身寄りが無い、身体的な障がいがあるとか、そういう人のことを言っているのか、社会的に弱い立場にある方々っていうのは、どういう人達っていうことで括っているのか、そういうところがちょっとあやふやな表現になるよりは、誰一人として取り残さないというように、スポンとそこに入れたほうが、とても気持ちが良い文面になるのではないかなと個人的には思いま

した。

以上です。

【岩渕政策監】

はい、只今の御指摘の所ですけれども、ソーシャル・インクルージョンという言葉の解説として持ってきた表現でございますので、御指摘を踏まえまして他の表現がないか検討して参ります。

【南局長】

はい、そのほかいかがでございますでしょうか。

よろしゅうございますか。

はい、非常に貴重な御意見皆様方からたくさん頂戴いたしました。私共も一つ一つ、全てに御回答できればよろしいところですが、今皆様方からいただいた御意見、しっかりと胸に受け止めまして、次期総合計画の中にきちんと吟味をした上で反映できるようにして参りたいと思います。

また、具体的ないわゆる斬新的なアイディア的なお話もたくさん頂戴しております。そのようなものも踏まえながら、具体的な政策化できるのかどうか、そういったところをまた個別に検討していければと思います。

なお、現在パブリックコメントはまだやっていますよね。

【岩渕政策監】

7月20日までです。

【南局長】

まだ、パブリックコメントということで、今回の長期ビジョンに対する御意見を頂戴する機会等もございます。

また、本日まだ言い足りなかった、あるいは忘れていたようなことがありましたら、例えば県北局、本局の方であれば経営企画部、二戸の方であれば地域振興センターの方までお寄せいただければ追加の御意見という形で私共もまた整理をさせていただきたいと思います。

それでは、皆様方から非常に貴重な御意見を頂戴したところでありますけれども、そろそろ予定の時刻が近づいて参りました。

それでは、次にその他となりますけれども、皆様の方から何かございますか。

よろしゅうございますか。

それでは、以上で議事を終了させていただき、事務局の方にマイクを返したいと思います。

【佐藤副局長】

それではこれを持ちまして、平成 30 年度第 1 回地域運営委員会議を終了させていただきます。

なお、本日御出席いただきました委員の皆様には、後日御礼の御品をお送りさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。